

業務部速報



No. 38

発行 22. 11. 11

JR東労組 業務部

申6号 年末手当等に関する申し入れ 第3回団体交渉を行う！ その2

●組合の主な主張

■会社の主な主張

<p>回答の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●回答の根拠は何か ●2.5ヶ月ではなくなぜ定額+2万円なのか ●11月16日までの回答を求めていたが、なぜ本日回答なのか ●コロナ特別手当についてはどうなのか 	<ul style="list-style-type: none"> ■会社として最大限出来る回答を示した ■若手層に一定の処遇にもつなげる効果考えた ■少しでも安心して働いてもらうように早く回答し、検討して最大限の回答をしている ■支給月数の幹の部分に含めて総合的に判断した
<p>職場の努力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一貫して会社は高い収入目標に向けて相当な努力が必要だと言っている。我々の努力がこの低額回答のどこに反映されているのか ●頑張ってもらいたいとモチベーション向上させるのが経営側がすべきことだ。足元が好調で見通しが立っている中でそのことが全く考慮されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ■回答書にも社員1人ひとりの感染対策、安全・安定輸送の確保、サービスの提供について明記した。黒字の結果は、社員1人ひとりの尽力の結果であると示している ■第8波が始まりつつある報道がある。様々楽観視出来ない状況がある。そのような状況の中で社員一丸となって、今後もしっかりと取り組んでいきたい
<p>物価上昇について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●第2回交渉でも、労働実感・生活実感についても検討して判断すると述べられた。この低額回答のどこに反映されているのか ●物価上昇分が含まれているということだが、物価上昇がなければもっと低いのか。物価上昇分はいくらなのか 	<ul style="list-style-type: none"> ■回答書でも物価上昇などの社会情勢を総合的に勘案して記載している。決算の動向、見通し、社員からの声、物価上昇も踏まえ総合的に勘案して回答している ■物価上昇は判断の1つの要素である。これを切り離して判断するという事ではない
<p>施策実施について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●施策を担っている職場の努力も期末手当の1つの要素であることを第2回交渉で確認した。我々の努力がこの低額回答のどこに反映されているのか ●会社の発展に組合員・社員の努力が必要であり、生活が安定しなければ力を発揮出来ない。賃金によって社員還元をし働きがいを向上させ、社員・家族の幸福を実現すべきだ 	<ul style="list-style-type: none"> ■社員の努力について、回答書の中にも社員1人ひとりの感染症対策、安全・安定輸送の確保、サービスの提供について明記している。黒字の結果は、社員1人ひとりの尽力の結果である ■社員の働きやすさを考えて、会社とすると最大限の取り組みをしている。覚悟を持っての最終回答である
<p>人材流出について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●2018年度の離職者数は267名、2021年度は597名。たった3年で若年退職が倍増しているのは異常だ ●離職に対する危機感が感じられない。会社の回答で離職率は下がると考えているのか ●会社は都合が悪い声は、一部の声として切り捨てている。離職の防止と、通期計画に向けて相当な努力を行う社員のモチベーション、やる気を向上させるために回答の再考を求めろ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ■回答書にもある通り、基本的に直近の業績を鑑みて総合的に勘案していく。その中に若手の離職対策も含まれる ■先のことは誰も分からない。社員が安心して働くことが大事なので、会社として離職防止に努める ■社員の意見を決して切り捨ててはいない。様々な離職などの意見があるのは、受け止めている。今出来る最大限の回答として、社員の声に応えることを意識して回答している。再考はしない！
<p>有利子負債について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●有利子負債の増加が手当を判断する理由にはならないと回答があった。回答書に有利子負債を記載した理由は何か。交渉と矛盾する ●有利子負債の増減を持って期末手当を抑制してこなかったのか 	<ul style="list-style-type: none"> ■有利子負債が増えたことのみを持って判断するものではない。総合的に勘案する要素の1つ。矛盾しているとは思っていない。 ■イコールの関係ではない。有利子負債が増加したからといって、増減するという事ではない



●この月数では不満である。本当に夢も希望もなくなる数字である。改めて再考を求めろ！



■会社として、覚悟を持っての最終判断である。最大限の回答である！